

私がこの東京方面企業訪問・東京大学訪問に参加した理由は、地元の仙台ではなく日本の首都で世界に目を向けた仕事をする人々を訪ね、是非自分の将来について深く考える機会にしたいと考えたからだ。

東京に着いてから初めに、義手の開発者である近藤玄大さんの、『「ものがたり」としてのものづくり』というテーマの講演をお聞きした。近藤さんの話は、新しい義手の製作時の努力や取り組み、使用者との関わりなど、おもしろい内容だった。その中でも特に「色んな人、色んな考え、色んな価値観に触れる」という言葉が印象に残った。

その後はディレクトフォース・笹川平和財団の方々とのグループセッションを行った。1人目の講師は守屋雅夫さんだ。この方はキューピーの技術本部長をされて、様々なドレッシングやソースを作り、中国でも活躍された。守屋さんの話は冒頭から最後まで内容の濃くおもしろい話ばかりで、今までで一番頭を使った気がした。とりわけ印象に残ったのは、『集中力と持続力をもって仕事にあたり、「これを頼もう!」と言われる人間になることが大切。』という話だ。私も何か目標を達成させる時、意識していきたいと思った。

2人目の講師は藤井麻衣さんだ。この方は国連で環境に関わるお仕事をなされていて、とても興味深いグローバルな話をしていただいた。私は、最近マスメディアで取り上げられている、米国大統領が気候変動抑制のためのいわゆるパリ協定の離脱を決定したことについて質問した。それに対する、本来は目標をもっと引き上げる必要があり、これを達成できても地球の平均気温が3℃も上がってしまう、という藤井さんの返答には驚いた。又、国際的な場で働くうえで、専門分野を何かもち、会話のツール(英語)を身につけていくことが大切であり、将来の可能性を広げることができるという話もしていただいた。

3人目の講師は相馬円香さんだ。この方は SOMOS & Co. という、子どもを中心に国際的なコミュニケーション能力を育て、多様な文化に触れることのできる企画を開催している会社を起業された。私は、相馬さんに「上に立つ者として、人をまとめること」について伺ったところ、そういう人は、人やもの、資金など、全てを自分で決めなければならない、決断力や意志の強さが問われると教えていただいた。しかし、仲間にも頼りつつ、苦労を共にして進んでいくということも大切だとおっしゃっていた。又、英語について「活用力を大切に。」というお話もしてくださり、このお言葉を今後の勉強に生かしていきたいと思った。

午後からは、東京医科歯科大学でゲノム病理学を研究されている石川俊平教授のもとを訪問した。私は将来医師になりたいと思っているので、学校の生物で学んだ DNA やゲノムなどに興味を持ち、是非医学の世界について多くのお話をお聞きしたいと思った。

始めに、ゲノム病理学について紹介していただいた。それは、がんを中心に様々な病原体を遺伝子技術を用いてその性質を研究し、新たな治療法の開発を行うのだそう。その

上で、分子標的治療薬という、がん細胞だけに強く作用するように設計されていて、高い治療効果の得られる上、副作用も少ないという治療薬について教えていただいた。素晴らしい発明だが、それには一人一人がん細胞の遺伝子解析が必要であり、今までは長い時間と高い費用がかかった。しかし、次世代シーケンサーという遺伝子を早く、安い費用で解析できる機械の登場によって、分子標的治療薬が身近なものになったようだ。

その後、種類の違うがん細胞を見せていただき、病理医の仕事についても学ぶことができた。又、研究室は見たことのない機械や薬品が並んでおり、非常に興味のそそられた。ますます医者になりたいと思えた。

最後に、研究室の方々と未来の医学界について意見交換を行った。特に印象に残ったのは、「研究において、他人にどう思われようともコツコツ努力を重ねていく中で、世界に認められるような発見をすることができる」という話だ。努力は人に大きな力を与えてくれるものであり、私も医師になったとき、努力によって素晴らしい発見をすることができるのだと思った。

東京医科歯科大学では、医学について多くの知識と経験を得ることができ、自分にとって非常に有意義だった。高校生活の中ではこの経験を生かし、医師という目標に向かって頑張っていきたい。

夕食後は、現役東大生や東京でご活躍されている二高 OB・OG の方々との座談会に参加した。勉強法や大学での生活について多くのお話を聞くことができた。そこで感じたことは、彼らは「誰にも負けない」という強い想いで努力を積み重ねてきた方々なのだということだ。あらゆる手段を駆使して勉強の質を高め、たくさん演習したことが、教えていただいた勉強法から伝わってきた。

2 日目は東京大学の駒場と本郷キャンパスで、fairfind という学生団体が主催するワークショップに参加した。「進路を見つめ直す」というテーマで、将来何がしたいのか、そのためにどんな大学でどんな学問を学びたいのか、そのために今は何をすべきか、ということ東大生と一緒に考える。私は医者になるために、難関医学部に入りたいと思う。それゆえ、一年生のうちから基礎を固め、二年生で模試で良い成績を残せるようにすると確認した。

又、弥生キャンパスでは農学部の 2 人の教授の研究室を見学した。1 人目は、水族生理学研究室の金子豊二教授だ。ここでは魚の環境への適応を研究されていて、大きな水槽が数多く並んでいた。金子教授によると、多くの生物は体液の塩分濃度が 0.9% であるそうで、それを保つために膨大なエネルギーを消費しているらしい。そこで、魚を塩分濃度が 0.9% の水槽の中で飼うと、エネルギーの消費が抑えられ、よく成長するようになる。このような研究で食料問題などを解決し、社会へ貢献していくことが農学部であるようだ。

2 人目は、森林化学研究室の五十嵐圭日子教授だ。ここでは、植物細胞壁の約 50% を占

めるセルロースと、それを分解する酵素について研究されている。そのうち1つの酵素のX線結晶構造解析の画像を見せていただいた。とても綺麗で緻密であり、この解析度はギネス記録にも認定されている。とても貴重な経験であった。

これで2日間全ての活動を終えた。とても短い時間であったが、将来の事を深く考える機会となり、その先についてたくさん知ることができた。未来に希望をもって、生き生きと残りの高校生活を送っていきたい。